

議決権行使レポート

証券コード 6932

会社名 遠藤照明

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金の処分の件	○		
第2号議案 監査役選任			
久保 章 氏		○	
村井 潤 氏	○		
神崎 泰郎 氏	○		
第3号議案 補欠監査役1名選任の件			
坂田 秀隆 氏	○		
第4号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件			
藤田 和男 氏	○		

上記の推奨をした理由

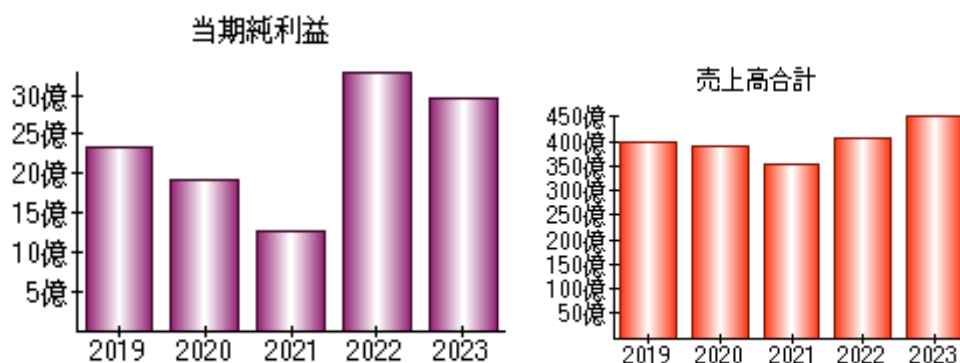
第1号議案 剰余金の処分の件:

(単位百万円) 2023年3月期のキャッシュフロー計算書によると、営業CFは3,901(+)、投資CFは△2,789(-)、財務CFは△461(-)である。つまり企業の状態は優良型で、収益力があり、財務体質も健全であり、将来投資にも積極的に見える。

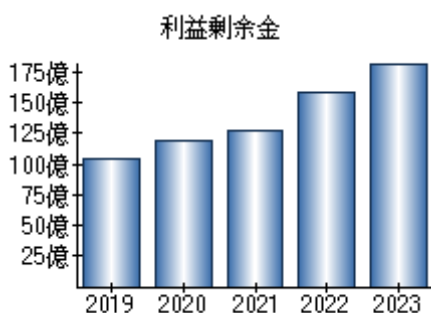
当期純利益(図1)と売上高のグラフ(図2)から見ると、2020年からコロナの影響で業績も厳しい状況になったが、2022年から回復し続ける傾向が見られる。また、利益剰余金の図3を見ると、増加する傾向がある。提案による増配は、この収益成長の一環として受け取ることができると考えられる。また、当社の好業績状態と増配の提案は、株主に対して企業の信頼性を高めることにより、企業の持続可能な成長戦略の支援に役立つばかりでなく、我々株主としての投資利益の増加が期待されると判断し、賛成している。

(図1)

(図2)



(図3)



## 第2号議案 監査役選任

### 久保章氏(新任)

確かに、久保章氏は経理業務の経験を持つ方であり、財務報告や経理プロセスに関する理解を持っており、監査業務において役立つ可能性がある。しかし、当社（遠藤照明）の顧問として企業に参与していた場合、その参与によって独立性や中立性が損なわれる可能性もある。また、社内監査役は組織内に所属しているため、組織内の利害関係者や上級管理職との関係性が生じると考えられる。顧問としての関係や経理業務の経験がある場合、経営陣や他の部門との利益相反が生じる可能性もあり、客観的な立場を保つことができるかどうか疑問が生じるため、反対している。

### 村井潤氏(再任)

村井潤氏は30年の弁護士としての経験を持ち、さらにケイエス冷凍食品株式会社と金融機関で社外監査役および員外監事の経験を有している。これにより、客観的に信頼できる存在と考えられる。また、法律の専門家として、会社の経営陣から独立した立場と職責を有しながら、法務面を中心とした監査役の職務を適切に果たすことができると判断する。さらに、社外監査役であり、他の専門知識を持った外部専門家である。したがって、当社の監査に必要な専門的な業務を適切に実施することができると思う。監査役会への出席回数も全て出席しており、その点でも信頼性があり、そのため、賛成している。

神崎泰郎氏(再任)

神崎泰郎氏は他社で総務、経理などの管理部門の責任者としての経験により、会社の業務やリスクに関する専門知識と経験に満たしている。また、管理部門の責任者は、組織の運営や業務に深い理解を持っている。そのため、監査役としての役割を通じて、組織の内部における課題や機会をより詳細に把握できると考えている。さらに、社外監査役であり、企業外部から派遣されるため、経営陣や内部の利害関係者との利益相反が少ない状態で監査活動を行うことができると判断し、監査役会への出席率も八割以上であったため、賛成している。

第3号議案 補欠監査役1名選任の件

坂田秀隆氏

坂田秀隆氏は公認会計士の資格を持ち、財務諸表の監査や財務報告に関する専門知識と経験を有していると考えられる。経理や会計の原則について深い理解を持ち、監査業務を適切に実施するためのスキルを有していると判断できる。また、公認会計士は、監査の独立性と中立性を守ることが求められる専門家であることによって、独立した第三者として企業の業績や財務状況を客観的に評価し、内部統制の評価やリスク管理を行うことができる。会計基準や監査基準、企業法務などの法令や規制に詳しく、それらに基づいて監査活動を遂行することができる。また、監査法人での経験や大手監査法人への所属は、監査業務や財務報告に関する幅広い知識とスキルを獲得している可能性があり、シニアマネージャーの経験も、組織の内部統制やリスク管理について高度な理解を持っていることと判断し、賛成している。

第4号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

藤田和男氏

藤田和男氏は2011年6月から社外監査役として長年にわたり当社の監査業務に従事してきた。それにより、監査役の業績や尽力に対して、感謝の意を示すために、また、退任監査役が退職後も企業との良好な関係を維持する可能性が高まることから、将来的なアドバイスやサポートの受け入れも容易になるかもしれないと判断し、賛成している。